

イベントの開催に向けたリスク評価について

危機管理・防災担当

これまで本区においては、イベントの再開に向けて「施設等の再開の段階別ステップ」を示し、具体的な感染拡大防止策については、「葛飾区感染拡大防止ガイドライン」及び「地域の行事・イベント・会議を実施する際の留意点」を明らかにし、イベント再開に向けた準備を進めてきたところである。

そこで、今後のイベントの開催にあたり、各部において再開に向けた具体的な検討を促すことを目的に、下記に主な評価ポイントを示すこととする。

記

1 開催規模の想定

(1) イベントの概要の整理

イベントの内容、実際場所の広さ、過去の実施規模、参加者の属性、開催目的等を確認する。

(2) イベントの開催人数上限の確認

「区施設等の再開の段階別ステップ」で示されているイベントの上限を確認する。

6/19以降 (屋内)1,000人以下、かつ収容定員の半分以下 (屋外)1,000人以下

7/10以降 (屋内)5,000人以下、かつ収容定員の半分以下 (屋外)5,000人以下

8/1以降 (屋内)収容定員の半分以下 (屋外)制限なし

(3) 会場の設定・開催規模の想定

(1)(2)の確認を基に、会場内でのブースやコーナー・エリア、受付等の配置を設定し、開催規模を想定する。

2 開催するに当たってのチェックポイント

イベントの開催にあたっては政府専門家会議や関係団体の感染拡大予防ガイドラインにおいても、各現場において試行錯誤をしながら、また創意工夫を凝らしながら実践していくことが必要とされている。

ここでは、イベント主催者が、担当イベントの配置図や展開図を俯瞰しながら、イベント全体、ブース・エリア単位ごとに飛沫感染や接触感染などについてリスク評価し、イベントの実施の可否や規模・内容の変更を検討するに当たってのチェックポイントを作成したので活用されたい。

《チェックポイント》

① 人との接触を避け、対人距離を確保できているか

- 会場が混雑しないようにするため、入場制限を行うことが可能か。
(整理券の配布や入場者数・滞在時間の制限等により密にならないように対応。発熱またはその他の感冒様症状を呈している方の入場制限)
- 並ぶ箇所の距離確保が会場内で可能か。着席の場合の距離の確保が可能か。
- 来場者・スタッフが密になる箇所はないか。
- 開会式・閉会式、ステージなどで密になることのないようにできているか。
- 段階的な入場、退場ができる仕組みができているか。
- 参加者同士が近い距離で接触しないよう内容が配慮されているか。
- 駅周辺など交通機関に来場者が集中することはないか。
- 例年、来場者が集中する箇所の密の回避がされているか。

② イベント会場における飛沫感染リスク対策が図られているか。

- 換気の状態が良好に確保されているか。
- 人と人との距離は常に確保されているか。
- 施設内で大声を出す様な場面はないか。
- 各自マスクの着用は徹底されているか。着用していない場合、配布等により対応することは可能か。
(ただし、一定の距離が取れている場合は、熱中症予防のためマスクは適宜外す。)
- 案内役や整理員など多数と接触する機会が多い担当者には、フェイスシールドや手袋の着用ができるか。
- 会場を屋内から屋外に変更することが可能か。

③ 接触感染リスク対策はとれているか。

- 入口および施設内に手指の消毒設備を設置しているか。
- 会場内で、他者と共有する物品やドアノブなど手が触れる場所と頻度を分析しているか。
- 高頻度接触部位(テーブル、椅子の背もたれ、ドアノブ、電気スイッチ、電話、キーボード、タブレット、タッチパネル、レジ、蛇口、手すり・つり革、エレベーターのボタン、トイレなど)は特に定期的に消毒・清掃する人員を確保することが可能か。

④ 飲食について必要な対策が講じられているか

- すべての食事は、表面の汚染を防ぐ工夫を行い、1回分ずつ分けて提供できるか。
- すべての飲み物は1回分用の容器に入れ、ボトルや缶で提供されているか。
- 飲食スペースが、身体的距離の確保として2メートルを目安に(最低1メートル)確保することが可能か。確保できない場合は、時間をずらして複数組に分割する、パーティション等で仕切るなどの対応が可能か。

⑤ 発熱や体調不良の方、重症化リスクのある方への対応

- 来場者の体温測定や体調確認を行う人員を確保することが可能か。

□高齢者、基礎疾患をお持ちの方などへの配慮が可能か。(対応が難しい場合は、参加をご遠慮いただくことも考えられる。)

なお、上記のチェックポイントを踏まえて、イベント全体の配置関係、開催コーナーの可否をそれぞれ検討し、全体的にリスク分析を行い、実施内容・規模の変更等に反映する。

その後、具体的な方策については「地域の行事・イベント・会議を実施する際の留意点」を参考に詳細を詰められたい。

また、各種関係団体においては、最新の知見に基づいて、ガイドラインの更新が図られていくので、こうした動向にも注視を願いたい。